

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社 ウエルサポート		
事業所名	グループホーム 第二わらび苑	ユニット名	I
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜豪1622番地63		
自己評価作成日	2020年10月28日	評価結果市町村受理日	2020年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年11月27日	評価確定日	2020年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、小規模団地の中に平成16年6月に開設し、現在2ユニット定員18名で運営しています。開設当初から系列ホームと共に地域の認知症の人やその家族を支えるため様々な活動を実践することで利用者やその家族及び地域の方々から多くの事を学ばせて頂きました。その学んだ知識と経験を活かしながら活動を続ける計画でしたが新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から活動の自粛が余儀なくされました。家族や地域の方々の来苑も自粛して頂くことになり、今まで経験したことがない状況下でも利用者が安心して楽しく暮らせる事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム第二わらび苑」は長く勤務する職員が多い。ホームの理念である「みんなで、いっしょに、ゆったり、たのしく」を大切に、コロナ禍においても、車いすを押してホーム周辺を散歩されている。外の椅子で体操をしたり、お茶を楽しまれ、庭の「バラ園」も好評で、四季折々のお花を楽しまれている。ご利用者がお花を摘んで、お部屋に飾られる方もおられる。気候に応じてドライブも行い、車窓から季節の花見(桜・紫陽花・秋桜など)を行い、気分転換されている。日々の食事も美味しく、理事長が作られた野菜(大根やニンジンなど)を使い、彩りの良い季節の食事が作られ、郷土料理の「ほうふらずうし」も楽しまれている。ご利用者も一緒に料理の下ごしらえや食器洗い等をして下さり、職員も感謝の気持ちを伝えている。「自立支援」の視点も素晴らしく、「歩けそう」「食べることができそう」などの視点でケアが行われ、入居後次第に食欲が増し、笑顔が増える方も多い。入浴時も職員とゆったり会話を楽しまれ、「昔は五右衛門風呂に入っていた」等の生活歴を教えて下さっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」を大切に管理職と職員はその意味を理解し実践している。	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」という理念であり、コロナ以前は地域の春の祭りやお寺の花祭りに参加したり、保育園児との交流を楽しんでいた。コロナ禍も楽しみを増やすことを大切にされており、美味しい食事を楽しまれ、一緒に家事活動や散歩などをされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	代表者が地域出身者であり地域とは日頃から交流する機会がある。また、災害時には避難場所としての利用も地域の人に周知している。	コロナ以前は、敬老祝賀会でピアノ教室の子ども達と一緒に楽しまれたり、お寺の花祭りに参加して甘茶を飲まれていた。お寺の学童クラブの子ども達と七夕作りを一緒にされたり、保育園児が踊りを披露して下さっていた。コロナ禍も、ビデオレター等で交流できる方法を検討予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長年の認知症ケアの実践から学んだ知識を地域のために幅広く提供し、認知症の人の理解や対応方法等に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、おおむね2ヶ月に1回の頻度で開催しているが今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から資料のみの送付にしている。	コロナ以前は家族全員に会議の案内状を出し、ご利用者全員に声かけしており、配布資料に行事の写真を掲載し、「利用者別介護度推移表」も作成し、参加者から好評であった。コロナ禍は書面会議を行っており、今後も参加者の方から、ご意見を頂く予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは日頃から意見交換しており、常に事業所の取り組み状況等が伝わるような取り組みをしている。	理事長は総務省の行政相談員を担っており、市民からの各種相談を受け、色々な機関に繋いでいる。西海市及び長崎県から「子育て支援事業」の依頼もあり、社長が中心となり「子ども食堂」等の開設準備を進めている。ホーム長や計画作成担当者も市に入退居情報等を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から「如何なる場合も身体拘束しない」ケアを実践している。玄関の施錠については防犯の観点から夜間のみ施錠している。	身体拘束廃止委員会の開催や研修が行われ、「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えを職員は理解している。職員の優しい対応で穏やかに過ごされる方が多く、安眠されている。家族にホームの方針とリスクを説明し、転倒予防等の見守りを継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学ぶ機会があり、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう虐待防止に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を活用している入居者が2名と成年後見人が選任されている入居者が1名おり、入居者個々の状況に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書等は、利用者や家族が理解しやすいように懇切・丁寧に説明し、納得してから契約の締結をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が気軽にいつでも意見や要望等を言える関係づくりを日頃から心掛けて、出された意見等で運営に反映できるものは反映させるようにしている。	コロナ禍も、家族の方々と玄関や窓越しの面会を行い、電話等で日々の暮らしぶりを報告し、要望を伺っている。コロナ以前は家族参加の行事があり、家族の方が歌を披露して下さったり、体育館でのミニミニ運動会も好評で、コロナ収束後の各種行事の再開を楽しみにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案等を職員が話せるような職場環境をこころがけており、出された意見等で運営に反映できるものは反映させている。	運営者と職員全員の結束が強く、長く勤務されている職員が多い。日々の仕事にやりがいを感じ、「仕事が趣味」と言われる方もおられる。職員の体調等を考慮した勤務体制にしており、職員同士の助け合いも日常にある。理事長、社長、各ホーム長にも相談しやすく、職員のアイデアも多い、	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所代表者(管理者兼務)は、職員の日頃の勤務態度等を把握しており、職員が、向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から法人内外の研修等を控えているが、職場内で業務遂行しながらスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以来、同業者と交流する機会を構築していたが、今年度に関しては新型コロナウイルスの関係で交流ができていないが、コロナウィルスが収まれば、勉強会等を開催して質の向上に取り組む予定にしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、本人が安心して生活できるよう言葉使いや接遇態度に注意しながら安心が確保できる場所づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の相談を受けた段階で本人や家族の実情及び要望等を聴き、本人に必要なサービスを見極めて、その支援を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される関係ではなく、一緒に楽しく暮らして行けるような関係を大切に、良い関係が築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にしながら、家族と共に本人を支えて行ける関係づくりを築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの今までの馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	生活歴(馴染みの人や馴染みの場所等)の把握を続けている。コロナ前は近所の方の面会もあり、居室やリビングでゆっくり過ごされていた。花祭り等の地域行事や病院の待合室で馴染みの方と交流したり、家族とお寺や外食と共に、病院の帰りに自宅に寄られる方もおられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支え合い孤立しないで楽しく生活できるように職員が仲介しながら支援に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもサービス利用時と変わらない関係を保ち、必要に応じた相談に応じたりして支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から本人の希望や意向が読み取れるよう心掛け、困難な場合はコミュニケーション記録簿等の記載内容から読み取れるよう心掛けている。	ご利用者に寄り添う時間を増やしてこられた。センター方式(アセスメントシート)、個人記録やコミュニケーション記録も活用し、ご本人の思いを記録に残している。職員の方々は、常にご本人の立場や思いになって解決策を検討しており、家族との情報交換も続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等から生活歴や暮らし方、生活環境等の情報を聴き取り、常に本人が安心して暮らし続けられるよう必要なサービス提供内容の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や表情及び毎朝のバイタルチェック時に心身状態や有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人・家族等及び関係者や全職員がチームとなって、意見やアイデアを出し合い、本人がより良く暮らして行けるための現状に即した介護計画を作成している。	センター方式(暮らしの情報シート等)やFAST等も活用し、「できること」「わかること」等を把握している。利用者ADL等調査票も職員個々に記入し、職員間で検討している。介護計画(1~3表)や手順書(職員作成)を作成し、体操やリハビリ、食器拭き等の生活リハビリも盛り込まれている。	入居前からアセスメントを行い、入居時の計画に繋げている。今後もセンター方式のD-1・D-2等にADL(座位、立位、歩行、立ち上がり等)とIADLの能力や「できそうなこと」などを追記し、計画や手順書と連動させていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しの際には、業務日誌や個人日誌などの記録簿から気づきや工夫を職員間で共有しながらモニタリングを実施して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化については、本人や家族の状況等により提供しているサービス以外の対応が必要な時には柔軟な対応ができるような体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが支えられていた地域資源を把握しながら、それらの活用により本人の暮らし方が豊かになるような活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」とは定期的な受診時に関わらず日頃から情報交換しており、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	希望する「かかりつけ医」に受診されている。眼科等は家族が受診介助して下さり、受診結果は家族と共有している。病気や内服等の勉強会を行い、職員も小さな変化に気づき、早期受診に繋げている。定期往診はないが、必要時の往診を受けられる体制は整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診時等に「かかりつけ医」の看護職と情報交換することで本人の状態を伝えたり、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、早期退院を目指して病院関係者と情報交換しながら早期退院できるよう、日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については日頃から家族等と話し合い、家族の意向を聴き取り、また、その時点での事業所が出来ること、出来ないことを説明し、家族や関係者等と方針を共有できるように取り組んでいる。	24時間の医療連携が困難であり、食事摂取ができる状況まではホームで支援したい旨を伝えている。必要に応じて往診を受けられ、特養等の申し込み支援も行い、病院等に移られる“ぎりぎり”まで、誠心誠意のケアが行われている。体調変化に応じて家族等と話し合い、ご本人と家族の意向はセンター方式に記入している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は利用者の急変や事故発生に備えて、応急処置や初期対応ができるような実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災時の初期消火や避難訓練及び災害発生時の対応については全職員が身に付けている。火災を未然に防ぐため設備の点検を日々行っている。災害時には地域の避難場所として活用できるようにしている。	2020年11月は停電を含め、災害発生対応の話し合いが行われた。年2回の防火訓練(夜間想定)では、機器の取り扱いの確認、手順の確認、火災受信機(警報)の確認を職員間で行っている。毎年の施設点検時に消防署が来られ、情報交換を行い、各機関との協力体制もある。災害に備えてカセットコンロ、水、米、缶詰、野菜、土嚢袋等を用意しており、ホームは地盤も固く、高台にあり、地域の避難場所になっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないために声掛け時の言葉使いに気を付けた対応をしている。	優しい職員ばかりで、ご本人の目線と合わせ、優しく寄り添い、言葉遣いに配慮している。年長者としての敬意を持って接し、ご利用者の意思決定を大切にされた声かけを続けている。個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で本人が思いや希望を話せるように、ゆっくり話しかけ、その思いが聞けるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日の体調や気分に合わせて希望にそった対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれに気を使い、服装などに乱れがあった場合は、さりげなく直したりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な食材を使い、時には食材を話題にしなが、楽しい食事ができるよう支援している。食後は食器の片付けや食器拭きなど手伝ってもらっている。	献立は職員全員で作、社長が確認して下さる。理事長が敷地内で野菜を育てており、とても好評である。職員の手料理も美味しく、彩りも綺麗で、ご利用者も「ごちそうね」と喜ばれている。ご利用者も下ごしらえ(玉ねぎの皮むき、芋づるやツラの皮むき等)、食器洗い等をして下さる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分補給量、定期的なカロリー計算等を記録に残し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを実施し、常に口腔内の清潔に心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、その力に応じて、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を確認し、個別のトイレ誘導を行う事で失禁が減った方もおられる。下着を着用し、排泄が自立している方や、排泄状況に応じてパッドの大きさを検討している。羞恥心に配慮し、トイレのドアを閉め、さり気なく見守りをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫や水分補給、また、毎日の体操、歩行運動などを活用して自然排便を促すよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日置きになっているが、本人の希望で毎日の入浴もできるようになっている。また、入浴を楽しめるよう菖蒲湯やゆず湯なども行っている。	お風呂が苦手な方もおられ、「今日はいい湯ですよ～」等の声かけを行い、気持ちよく入浴して頂いている。熱めの湯がお好みの方は一番に入ってもらったり、車いす利用の方も2～3人介助で湯船に浸かって頂き、職員との会話を楽しまれている。できる所はご自分で洗われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、安心して気持ち良く、眠剤に頼らない睡眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用、用法や用量を全職員が把握しており、服用時には手渡しで間違いがないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じて、タオルたたみや食器拭きなどを手伝ってもらっている。また、歌を唄ったり、ゲームをしたりして、楽しい一日が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の状況に応じて苑の周りを散歩したり、時にはお店に自分の欲しいものを買に行ったりしている。	車いすを押し、ホーム周辺を散歩されている。両ユニットの交流もあり、外の椅子でお茶を楽しまれたり、体操をされている。庭の“バラ園”も好評で、四季折々のお花を楽しまれ、理事長が育てる野菜を眺めることもある。車窓から季節の花見(桜・紫陽花・秋桜など)を行い、海の地平線を眺めており、コロンも気分転換をされている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと落ち着かない人もいるので、家族と相談して、一人ひとりの力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を出したりすることは自由で、本人の希望によって行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が本人に不快感を与えないように心掛けており、生活感や季節感が感じられて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関の中と外に椅子があり、何人かで一緒に座り、歌(炭坑節)を唄ったり、敷地内のお花見をされている。ホーム内は日々の掃除が丁寧に行われ、換気や温湿度管理も続けている。リビングは台所と一体化し、明るく広いスペースで、ご利用者も洗濯物たたみ等をして下さる。廊下に行事などの写真を貼り、思い出話をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも独りになりたい時は独りになれたり、気の合った人と一緒に語り合える場所などその人に応じた居場所工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、居室の空気の入替えを行い、使い慣れた物の持ち込み、写真や手作りカレンダー等を貼って本人が違和感なく過ごせる空間づくりに配慮している。	ベッドは備え付けで、家族の写真、馴染みの椅子、テレビ、化粧水、ブラシ等を持ち込まれ、家族がレイアウトや飾りつけをして下さる。仏壇やお位牌を置かれている方もおられ、職員がお水を変えている。家族が本(マンガ)や鉢花を持参して下さり、ご本人が水やりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホール等、利用者の歩行等に危険を及ぼす物品は置かず、入居者それぞれが安全で自立した生活ができるような工夫をしている。		